

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	アイリーライフWAKABA			
○保護者評価実施期間	2026年1月 31日		～	2026年 2月 21日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	31	(回答者数)	25
○従業者評価実施期間	2026年 1月 31日		～	2026年 2月 21日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数)	8
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 27日			

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	弊社では保育・介護の業務を行っている事業所もある為、連携を図り職場体験の機会を設け、実際に未就学児から高齢者の方と世代間交流を持つことで、世代を超えているような経験をさせる。	主に中学生の利用児童が多い為、高校進学へ向けて、職員が様々な高校の進路説明会に参加したり、高校に関するパンフレットを事業所内に置きいつでも閲覧できる環境を作ること、利用児童が自分の進学したい学校をイメージ出来るように情報提供を行っている。	今後も様々な活動を取り入れ、どのような活動が支援に合っているかを職員同士で話し合い、より良い支援に繋げていけるようにする。
2	パソコンの台数が9台ある為、タイピングの練習・スクラッチ・興味のあるものを検索する、等パソコンを使った機会が多く持てる為、パソコンの使い方を早く覚える事が出来、タイピングスピードも少しずつ速くなる。	誕生日や進学祝いなどで児童にプレゼントを渡し、事業所へ来る楽しみを一つでも多く出来るように取り組んでいる。	職員が毎日どのような活動を行うか表にして提示しており、児童の意見を取り込みながら毎週の活動を取り組める機会も作っていく。
3	集団活動とは別に、個別の活動時間をしっかりと取ることで、経験値を増やし自分に自信をつける。 畑作業を通して作物を収穫する楽しさを体感することが出来る。	活動の中にクッキングを定期的に行い、料理をする楽しさや、コミュニケーションなど図る機会を作っている	児童に役割をもってもらい、自主的に責任感を持って行動できるような機会を設けるようにする。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	児童の身体能力・運動能力も年々高くなっている為、職員の運動量では児童に合わせられない時がある。	発達年齢に大きな差がある利用児が、集団活動に関わる事が出来る時と、難しい時がある	パソコンを今以上に活用していきたいため、発達に合わせて適切な教材探しをしていきたい。
2	保護者同士の意見の交換や、交流の場が設ける機会が少ない。	高学年が多い為、思春期の話が多い。また他者との距離感が適切でない時がある	連絡帳だけではなく送迎等の時などに直接話が保護者と出来る時は、変わった事がないか常に情報を聞き、職員間で共有する
3	事業所内での交流は多いが、外部との交流がまだ少ない為、機会を増やしていきたい。	SNSの投稿頻度が少ないこと	SNSをさらに有効に使い、畑作業の様子や避難訓練、外出行事などいろんな児童の様子を投稿し、保護者をはじめ、他事業所にも知ってもらうようにしていく